

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地								
東京バイオテクノロジー専門学校	昭和63年2月26日	大谷 啓一	〒144-0032 東京都大田区北糀谷1-3-14 (電話) 03-3745-5000								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地								
学校法人 東京滋慶学園	平成25年4月1日	中村 道雄	〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2 (電話) 03-3763-2211								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士							
農業	農業専門課程	バイオテクノロジー科4年制	-	平成21年2月27日文部科学省告示第25号							
学科の目的	当該課程の目的は、核酸、たんぱく質の研究現場、あるいは、医療とその研究のために動物細胞培養、実験動物取扱、分析と研究の成果が活用される現場での仕事に必要な専門知識と技術を持ち、主体的に仕事ができる実験技術者を養成する。										
認定年月日	平成27年2月17日										
修業年限	昼夜	全課程の第7に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験					
4年	昼間	3895時間	1605時間	670時間	3240時間	0時間					
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数						
160人	155人	0人	12人	31人	43人						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(80点～100点)・B(70点～79点)・C(60点～69点)・D(59点以下)・E(50点以下)で合格、Dで不合格 ■成績評価の方法について 試験の結果、出席状況、学習態度、実習状況、レポートで評価する						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏 季:7月20日～8月31日 ■冬 季:12月20日～1月10日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	■成績評価 C以上 ■出席日数:習得時間数 授業時間の70%以上で不合格がないもの						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、第三者面談を実施する			課外活動	■課外活動の種類 大田区のりの博物館(地域連携) ■サークル活動: ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)						
就職等の状況※2	■主な就職先: 素業界等(平成28年度卒業生) 大学等研究室機関、遺伝子治療施設、医薬系企業、再生医療研究施設、実験動物取扱研究施設、細胞培養研究企業等 ■就職指導内容 就職対策講座を行い、履歴書の書き方、面接練習、筆記試験対策を実施 ■卒業者数 47 人 ■就職希望者数 33 人 ■就職者数 33 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 70.2 % ■その他 ・進学者数: 8人 ・横浜市立大学大学院 3名・千葉大学大学院 1名・信州大学大学院 1名 ・東邦大学大学院 1名・東京医科大学大学院 1名・東京理科大学 1名 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等) ※3	■資格・検定名 種 受験者数 合格者数 毒物劇物取扱責任者 ① 40人 38人 中級バイオ技術者 認定試験 ① 39人 39人 上級バイオ技術者 認定試験 ① 44人 34人 実験動物2級技術者認定試験 ③ 31人 20人 実験動物1級技術者認定試験 ③ 6人 0人 知的財産管理技能 検定3級 ① 43人 27人						
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 ■中退率 2.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者161名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者166名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 精神疾患、家族問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 電話連絡・個人面談・第三者面談実施及びSSC: スチューデントサポートセンター(学校カウンセラー)との連携強化			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 無 特待生試験の成績による減免(入学時のみ) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 非給付対象			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評審団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)										
当該学科のホームページURL	URL: http://www.bio.ac.jp										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをおいています。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行ない、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業次年に在籍している学生等です。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び間諭部、医学科、歯学部、歯科医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「就職者(内定)の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」は、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時の仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(闊達分野)」には、「学校基本調査」における「闊達分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、闊達分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

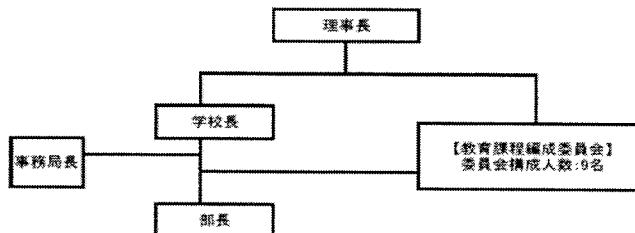
1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・研究所との連携について、従来、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現にむけ、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、講師授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催していました。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みも行ってまいりました。教育課程編成委員会においては、業界関係者からの意見も、より詳細に教育内容に反映させることを目的とします。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、委員会の適切運営は校長が担保することになっています。また、学校運営においては、教務組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を充分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営します。



(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大貫 敏彦	東京工業大学 教授	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(2)
戸塚 昭一	一般社団法人 葡萄酒技術研究会 代理理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(1)
川村 賢司	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 事務局	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(2)
伊藤 徹哉	無臭元工業 株式会社 商品開発室室長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(1)
小川 昭久	学校法人 東京滋慶学園	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(3)
大谷 啓一	東京バイオテクノロジー専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(3)
小池 伸一	東京バイオテクノロジー専門学校 事務局長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(3)
小室 真保	東京バイオテクノロジー専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(3)

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成29年6月8日 14:00～15:30
第2回 平成30年2月3日 14:00～15:30予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

基本的にはカリキュラムへの反映をベースに置いています。平成25年開催に於いて、大貫委員から提案がありました、放射能測定に係る人材育成に学校としての取り組みをひとつとして、「放射線取扱い主任者」の資格導入について具体的に平成27年度カリキュラム導入の検討を開始することにいたしました。また、遺伝子治療、再生医療等に大変重要な細胞培養技術及び動物実験技術に関して、新たに資格導入(「細胞培養士」)をはかり、平成26年度カリキュラムから授業内容を一部そこに合わせ、シラバスを改定し運用しています。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、卒業後の業界に直結した職業人教育を行うため、業界と連携し、ともにスペシャリストを育成することを目的としています。このため、特に実習科目に置いては、現場で活躍をするプロが非常勤講師として授業を行うなど、卒業後即戦力を有する人材を養成するための授業内容を、業界関係者とともに企画、立案、実施、達成度評価を行います。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業・研究所と講師業務委託契約を交わした上で、企業・研究所から派遣されたプロの人材が非常勤講師として、授業を実施しています。この際、講義授業は、講師がシラバス現アイを作成・学校との協議を経て確定した講義内容を展開しています。また実習授業では、講師による指導に基づき学生が実践、業界で必要なレベルまで技術を磨いています。また、授業実施後は、毎回報告書(クラスメート)の作成を求め、その内容をもとに学科専任教員と情報共有を行い、クラス運営における適切な問題解決を役立てるとともに、今後の授業内容の改善にも役立てることを目的としています。

さらに、企業・研究所において、学外実習(インターンシップ)を行い、企業・研究所の実習担当指導のもと、現場で必要な技術の仕上げと、コミュニケーションの向上を行っております。また、このインターンシップは、卒業論文にも運動しています。

こうした企業との緊密な連携に基づいた本校における授業の集大成として、卒業研究発表会を実施しています。それぞれの学生が企業・研究所から与えられたテーマに基づき卒業研究を行い、その発表をポスター発表の形で外部に向けて行っています。例年、企業・研究所等から100名を超える来場者を迎え、学生の成果発表に対する評価を行って頂いております。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
卒業研究Ⅰ・Ⅱ	卒業研究テーマについて、目的を明らかにし、実験計画をたて、実験、解析を行う	埼玉大学大学院理工学研究科、東邦大学、東京都健康長寿医療センター研究所、国立成育医療センター研究所、早稲田大学理工学術院、東京大学医科学研究所、理化学研究所、千葉医大学大学院医学研究院、聖路加国際病院、東京大学大学院農学部生命科学研究科、慶應義塾大学、国立国際医療研究センター研究所(新宿本所、国府台)、東京理科大学生命医科学研究所、東京医科歯科大学大学院、東京大学、微生物化学研究所、財団法人東京都医学研究機構、国立がん研究センター、埼玉大学
卒業研究ゼミⅠ・Ⅱ	卒業研究テーマに関する関係分野の調査、討論を行う	埼玉大学大学院理工学研究科、東邦大学、東京都健康長寿医療センター研究所、国立成育医療センター研究所、早稲田大学理工学術院、東京大学医科学研究所、理化学研究所、千葉医大学大学院医学研究院、聖路加国際病院、東京大学大学院農学部生命科学研究科、慶應義塾大学、国立国際医療研究センター研究所(新宿本所、国府台)、東京理科大学生命医科学研究所、東京医科歯科大学大学院、東京大学、微生物化学研究所、財団法人東京都医学研究機構、国立がん研究センター、埼玉大学
遺伝子解析実習	DNAの塩基配列決定の原理を学び、その基本技術を習得する	埼玉大学大学院理工学研究科、早稲田大学理工学術院、理化学研究所、埼玉大学
動物細胞組織実習	動物の臓器、器官における細胞の特徴や組織の特徴を標本の観察を通して学ぶ。組織標本の作製法を習得する	理化学研究所、千葉大学大学院医学研究院、聖路加国際病院、国立がん研究センター
細胞解析実習	生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるたんぱく質の観察を通して学ぶ。組織標本の作製法を習得する。	理化学研究所、東京理科大学生命医科学研究所、

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」
関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。平成28年度に置いては、中途退学防止に向けて「学生一人ひとり」に対する対応案の企画立案、実施、評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心にすえ、ファカルティ・デベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の要素が年間を通じた授業内容に反映されるように研修を行いました。

①キャリア教育の視点 ②カリキュラム改善、教育技法の改善

さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議に置いて、この方針を共有し、シラバス内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を行っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

バイオサイエンス教育部会研修(全教職員対象)

免疫学研究と医療への応用 9月16日

創約リード探索の最新状況 10月28日

オートファジーの構造生物学的研究 2月6日

細胞培養士指導者講習会(遺伝子関連授業担当教員対象) 1月21・22日

② 指導力の修得・向上のための研修等

月例教職員研修(全教職員対象) 毎月2回、第2・4月曜日に実施

講師研修会(平成28年度に授業担当する全非常勤講師対象) 2月26日

新入職者研修(平成27年4月～平成28年3月入職者) 3月29・30日

新入職者広報研修(平成27年度新入職および、前年度未受講者対象) 3月31日・4月1日

FDミクロレベル・フォローアップ研修(担任を担当する教職員対象) 6月8日

キャリアサポートアンケート勉強会(担任を担当する教職員対象) 6月24日

進路アドバイザー研修(進路アドバイザー・資格取得希望者対象) 7月14日

教職員カウンセリング研修(全教職員対象) 9月15・16日

マネジメント研修(マネージャークラスの教職員対象) 10月18日

広報力大会(マネージャークラスの教職員および広報担当者) 10月19日

JESC学会(全教職員対象) 12月9日

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

バイオサイエンス教育部会研修(全教職員対象)

免疫学研究と医療への応用 9月頃予定

創約リード探索の最新状況 10月頃予定

オートファジーの構造生物学的研究 2月頃予定

細胞培養士指導者講習会(遺伝子関連授業担当教員対象) 1月頃予定

② 指導力の修得・向上のための研修等

月例教職員研修(全教職員対象) 毎月2回、第2・4月曜日に実施

FDミクロレベル・フォローアップ研修(担任を担当する教職員対象) 8月9日

FDミドルレベル研修(担任を担当する教職員対象) 8月9日

教職員カウンセリング研修(全教職員対象) 9月15日

FDマクロレベル研修(担任を担当する教職員対象) 10月13日

マネジメント研修(マネージャークラスの教職員対象) 10月24日

広報力大会(マネージャー、広報担当者) 10月25日

フォローアップ研修(平成28年4月～平成29年3月入職者対象) 11月28日

JESC学会(全教職員対象) 12月7日

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校における自己点検自己評価を外部の目から見てチェックを頂き、考えの足りない部分をご指摘いただくのが大きな趣旨である。それに加えて、年度当初に立てた重点項目が年度の中間および終了時点で達成されているかどうかを学部の視点でご評価を頂き、次年度以降の学校運営に役立てていきたい。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標 <input type="checkbox"/> 理念・目的・育成人材像は定められているか <input type="checkbox"/> 育成人材像は、専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか <input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を頂いているか
(2)学校運営	(2)学校運営 <input type="checkbox"/> 理念に沿った運営方針を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を達成するための事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 設置法人は、組織運営を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営のための組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 人事・給与に関する制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか
(3)教育活動	(3)教育活動 <input type="checkbox"/> 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎の就業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか <input type="checkbox"/> 教育課程について、外部の意見を反映しているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を実施しているか <input type="checkbox"/> 授業評価を実施しているか <input type="checkbox"/> 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか <input type="checkbox"/> 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。 <input type="checkbox"/> 資格取得の指導体制はあるか <input type="checkbox"/> 資格・要件を備えて教員を確保しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上への取り組みを行っている <input type="checkbox"/> 教員の組織体制を整備しているか
(4)学修成果	(4)学修成果 <input type="checkbox"/> 就職率の向上が図られているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得率の向上が図られているか <input type="checkbox"/> 卒業生の社会的評価を把握しているか
(5)学生支援	(5)学生支援 <input type="checkbox"/> 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 退学率の低減が図られているか <input type="checkbox"/> 学生相談に関する体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 留学生に対する相談体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の健康管理を担う体制を整備している <input type="checkbox"/> 学生寮の設置など生活環境への支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 課外活動に対する支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 保護者との連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 卒業生への支援体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか

(6)教育環境	(6)教育環境 <input type="checkbox"/> 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか <input type="checkbox"/> 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集 <input type="checkbox"/> 高等学校等接続する機関に対する情報提供に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 学生募集を適切かつ効果的に行っているか <input type="checkbox"/> 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。 <input type="checkbox"/> 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか <input type="checkbox"/> 経費内容に対応し、学納金を算定しているか。 <input type="checkbox"/> 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っている
(8)財務	(8)財務 <input type="checkbox"/> 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか <input type="checkbox"/> 学校及び法人運営に関する主要な財務数値に関する財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 教育目標との整合性をはかり、単年度予算、中期計画を策定しているか。 <input type="checkbox"/> 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか <input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守 <input type="checkbox"/> 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営をしているか <input type="checkbox"/> 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか <input type="checkbox"/> 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか <input type="checkbox"/> 自己点検・自己評価結果を公開しているか <input type="checkbox"/> 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか <input type="checkbox"/> 学校関係者評価結果を公開しているか <input type="checkbox"/> 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献 <input type="checkbox"/> 学校の教育資源設施を活用した社会貢献を行っているか <input type="checkbox"/> 国際交流に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 学生のボランティア活動を推奨し、具体的な活動支援を行っているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)で記したように、その評価をその日以降の学校運営の改善につなげていきたい。
 今回の話し合いの中で、ご指摘頂いた中では、分野のはっきりした小さい学校なので、入学生の広報のみならず、出口への広報、つまり、業界への広報も必要ではないかという御意見を頂戴した。今年度にまず同窓会の要素を含んだ卒後講座を開講していきたい。また、シートにご記入頂いた中で、卒後教育および卒業生と在校生の結びについては、①卒業研究発表会をその場にする②来期より、分野ごとに同窓会+勉強会を実施し、卒業生同士及び在校生、業界の勉強の場を設ける。カリキュラムに関わる部分としては、カリキュラム編成委員会を(定例以外でも)積極的に開催し、内容が業界に常に合うように心がける。というような形で実施していきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
池田 昭	ノベールファーマ 株式会社 人事部部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	業界関係者
阿部 隆一	東星学園中学高等学校 講師	平成29年4月1日～平成31年3月31日	高等学校代表
川添 一郎	日本大学生物資源学部講師 地域保護司	平成29年4月1日～平成31年3月31日	地域代表
阿部 梅信	本校在学生保護者	平成29年4月1日～平成30年3月31日	保護者
伊藤 徹哉	無臭元工業 株式会社 商品開発室長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	卒業生
中村 道雄	学校法人 東京滋慶学園 理事長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	
小川 昭久	学校法人 東京滋慶学園 評議員	平成29年4月1日～平成31年3月31日	
大谷 啓一	東京バイオテクノロジー専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	
小池 伸一	東京バイオテクノロジー専門学校 事務局長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	
小室 真保	東京バイオテクノロジー専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
 URL:<http://www.bio.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

(1)で記したように、その評価をその日以降の学校運営の改善とつなげていきたい。特に今回の中でご指摘頂いたのは、前述の通り、分野の限られた規模の小さい学校であるだけに、入学生への広報のみならず出口への広報、つまり業界への存在を伝える広報も必要ではないかという意見を頂戴した。この件に関しては、業界団体への参加等積極的に取り組んでいきたい。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び	基本情報、開校の目的、建学の理念、沿革、校長
(2)各学科等の教育	各学科の入学定員・養成目的、教育スケジュール、教科目標、資格取得一覧、主な就職先
(3)教職員	教職員数、主な教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、企業連携等の紹介、就職支援への取り組み
(5)様々な教育活動・教育	海外研修、設備・施設
(6)学生の生活支援	遠方の方、留学生
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金情報、学費サポートシステム、
(8)学校の財務	監査報告書、決算書
(9)学校評価	自己点検・自己評価及び学校評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	災害時非常時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.bio.ac.jp>

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制) 平成28年度

分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修						講義	演習	実験・実習	校内	校外	専任	兼任	
○		導入研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	目的を持って学校生活をスタートできるよう、職業人としての心構えを習得する。	1	前・後	60	4	○	○	○	○	○		
○		プロ養成講座Ⅰ・Ⅱ	学校生活で必要なコミュニケーションの基本を学ぶ。	1	前・後	60	4	○	○	○	○	○		
○		PC 文書作成とデータ処理	パソコンソフトであるWordの操作法を習得する。	1	前	30	2	○	○	○			○	
○		バイオ英語Ⅰ・Ⅱ	バイオテクノロジー分野の関わる英語の基本単語を学ぶ。	1	前・後	60	4	○	○	○			○	
○		生物	細胞のつくりから生物における物質代謝、恒常性の維持を学ぶ。	1	前	30	2	○	○	○			○	
○		化学Ⅰ・Ⅱ	原子、分子、化合物の化学的概念と溶液の性質を学ぶ。	1	前・後	60	4	○	○	○			○	
○		生化学Ⅰ・Ⅱ	細胞および細胞内器官の構造と働きを学ぶ また、生体エネルギーも学ぶ。	1	前・後	60	4	○	○	○			○	
○		微生物学Ⅰ・Ⅱ	微生物の分類と特徴を学ぶ。各論(菌類)	1	前・後	60	4	○	○	○			○	
○		科学計算	実験で必要とされる数字の扱い方、濃度の計算法、データ処理の基本を学ぶ。	1	前	30	2	○	○	○			○	
○		分子生物学Ⅰ	生物の概念、細胞、DNA、RNA、タンパク質を学ぶ。	1	前・後	30	2	○	○	○		△	○	
○		遺伝子工学Ⅰ	遺伝子操作を行なう際に必要な方法の原理を学ぶ。	1	後	30	2	○	○	○		△	○	
○		毒物・劇物Ⅰ	毒物劇物取扱者試験合格を目指す。	1	後	30	2	○	○	○		○	○	
○		生物実習	植物、動物の細胞および形態的特徴を観察を通して学ぶ。	1	前	60	2	○	○	○		△	○	
○		基礎化学実習	実験器具・機器の取扱と試薬調製法を習得する。	1	前	60	2	○	○	○		△	○	
○		微生物実習	微生物の培養、観察を通して微生物取扱の基本操作、観察技術を習得する。	1	前	60	2	○	○	○		△	○	
○		基礎分析化学実習	分析化学の基本実験を通して実験操作技術の基本を習得する。	1	前	60	2	○	○	○		△	○	
○		生化学実習Ⅰ・Ⅱ	糖質、タンパク質、酵素反応を実験を通して学ぶ。クロマトグラフィーの原理、生体成分の抽出・定量法や性質、機能の評価法を学ぶ。	1	後	120	4	○	○	○		△	○	
○		動物細胞実習	動物細胞の培養法を習得する。浮遊細胞や付着性細胞の取扱いを習得する。	1	後	60	2	○	○	○		△	○	
○		基礎遺伝子実習	核酸の抽出、電位泳動、制限酵素処理などの基本操作、原理を学ぶ。	1	後	60	2	○	○	○		△	○	
○		プロ養成講座Ⅲ・Ⅳ	インターンシップ全般について学び、イメージを持つ。自己分析の手法を学び、自分を理解する。	2	前・後	60	4	○	○	○		○		
○		海外研修	海外の研究現場や分子生物学的手法の学習環境での体験を通して、国際的な感覚を持つ。	2	後	40	1	○	○	○		○		
○		海外研修事前研修	海外研修参加につき、事前に知識・情報を身につける。	2	後	15	1	○	○	○		○	○	△
○		PC データ処理とデータセキュリティ	データ処理に役立つ関数について学び、実験データの処理などに活用する。	2	前	30	2	○	○	○			○	
○		PC データ処理とプレゼンテーション	パワーポイントの基本操作を習得する。図表の作成の基本操作を学ぶ。	2	後	30	2	○	○	○			○	
○		分子生物学Ⅱ	真核生物の染色体構造および細胞の維持と調節機構を学ぶ。	2	前	30	2	○	○	○		△	○	
○		遺伝子工学Ⅱ	宿主・ベクター、遺伝子ライブラリー、遺伝子解析法を学ぶ。	2	前	30	2	○	○	○			○	
○		毒物・劇物Ⅱ・Ⅲ	毒物及び毒物の製造や販売において管理・監督するのに必要な国家資格。	2	前	45	3	○	○	○			○	
○		中級バイオ対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	中級バイオ技術者認定試験の対策を行う	2	前	60	4	○	○	○		△	○	
○		科学英語Ⅰ・Ⅱ	遺伝子工学、細胞培養、タンパク質工学などの文献を読む。	2	前・後	60	4	○	○	○			○	

○		生物統計	実験データの取扱いとデータの統計処理を学ぶ。	2	後	15	1	○			○			○
○		生命倫理	生命を扱うバイオテクノロジー技術が関わる倫理問題を考える。	2	後	15	1	○			○			○
○		機器分析実習	HPLC と GCなど分析機器の原理、操作法および試料中成分の定量法を習得する。	2	後	60	2			○	○			○
○		TOEIC講座 I	TOEIC受験のための講座。スコアーアップを目指す。	2	前	30	2	○			○			○
○		生体高分子化学	生体高分子の構造と機能の原理を学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○
○		有機化学	炭素化合物の化学的性質、化学結合、電子軌道などについて学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○
○		動物細胞工学	動物細胞への遺伝子導入方法や導入遺伝子の解析法、また応用研究として、体細胞クローニング、iPS細胞を使った再生医療などを学ぶ。	2	後	30	2	○			○			○
○		タンパク質化学	タンパク質の性質や構造・機能を学ぶ。	2	後	30	2	○			○			○
○		実験動物学	実験動物とそれらの飼育管理、取扱いの基本を学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○
○		細胞培養概論	動物細胞の持つ特徴に合わせた培養法を学ぶ。iPS細胞、ES細胞などの株の確立法など最新の細胞培養技術も学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○
○		実験動物飼育管理法	動物福祉に即した実験動物の飼育法、実験データの取扱いなどを学ぶ	2	後	30	2	○			○			○
○		植物バイオテクノロジー総論	植物バイオテクノロジーを最近のトレンドを中心に学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○
○		植物細胞工学	植物細胞への遺伝子導入方法や導入遺伝子の解析法などを学ぶ。	2	後	30	2	○			○			○
○		遺伝子工学実習 I・II	遺伝子のクローニング技術、ブルーホワイトアッセイの実践と理論、タンパク質の電気泳動法および免疫染色法などを学ぶ。	2	前	120	4			○	○			○
○		応用細胞培養実習	遺伝子のクローニング技術、ブルーホワイトアッセイの実践と理論、タンパク質の電気泳動法および免疫染色法などを学ぶ。	2	後	60	2			○	○			○
○		応用微生物実習	GMP法の微生物検査等の手法を習得する。 遺伝子解析による菌株の同定も行う。	2	後	60	2			○	○			○
○		動物細胞工学実習 I・II	動物培養細胞に外来遺伝子を導入し、細胞の機能および発現タンパク質の解析の原理と手法をする。	2	前	120	4			○	○			○
○		実験動物取扱実習 I・II	実験動物2級技術者として必要な技術を習得する。特に日常管理、動物実験アシスト、簡単な卵操作技術補助などを習得する。	2	後	120	4			○	○			○
○		タンパク質精製実習	試料からのタンパク質精製を行い、タンパク質の単離法とその取扱い法を習得する。	2	後	120	4			○	○			○
○		植物学実習	植物の形態観察、組織の観察で、植物の体制と各器官の働きを学ぶ。	2	前	60	2			○	○			○
○		植物細胞工学実習	細胞融合、遺伝子導入などの手法を習得する。	2	後	120	4			○	○			○
○		植物組織培養実習	無菌播種、細胞培養、組織培養、カルス誘導と分化など植物細胞の培養と取扱いを習得する。	2	前	120	4			○	○			○
○		プロ養成講座 V・VI	自己分析をし、文章を書く技術を学ぶ。	3	前・後	60	4		○	○	○	○	△	
○		就職対策講座 I・II	就職試験対策を行う(記述 面接)。	3	前・後	60	4		○	○	○	○		
○		上級バイオ対策 I・II・III・IV	上級バイオ資格試験対策として微生物分野及びバイオ機器をまとめる。	3	前・後	60	4	○			○			○
○		科学英語 III・IV	遺伝子工学、再生医療、タンパク質工学などの文献を読む。	3	前・後	60	4	○			○			○
○		知的財産検定講座 I・II	国家資格 知的財産管理技能検定3級の項目を学ぶ。	3	後	45	3	○			○			○
○		TOEIC講座 II・III	TOEIC受験のための講座。スコアーアップを目指す。	3	前・後	60	4	○			○			○
○		応用遺伝子工学	遺伝子工学的手法を用いた実際の研究手法を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○
○		免疫学	細胞および分子レベルの免疫機構を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○
○		データベース検索演習	DNA塩基配列・タンパク質アミノ酸配列データに関するデータベースやツールの使い方を中心に学ぶ。	3	前	30	2		○	○				○
○		動物生理学	生体の正常な機能を機能系ごとに概説する。	3	前	30	2	○			○			○
○		実験動物学	実験動物とそれらの飼育管理、取扱いの基本を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○

	○	応用実験動物学	実験動物技術者として必要な応用知識を学ぶ。	3	前	30	2	○			○		○
	○	遺伝子解析法	生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるタンパク質の構造および機能を解析するための様々な解析法について学ぶ。	3	後	30	2	○			○		○
	○	薬事法	バイオテクノロジー分野の関わる薬事法を学ぶ。	3	後	30	2	○			○		○
	○	薬学概論	バイオテクノロジー分野に関連する薬学のトピックスを学ぶ。	3	前	30	2	○			○		○
	○	実験動物飼育管理法	動物福祉に即した実験動物の飼育法、実験データの取扱いなどを学ぶ	3	前	30	2	○			○		○
	○	植物生理学	タンパク質の性質と実験法の原理を学ぶ。	3	前	30	2	○			○		○
	○	植物分子生物学	植物における遺伝子発現、タンパク質の生産などの分子生物学を学ぶ。	3	後	30	2	○			○		○
	○	遺伝子解析実習	DNAの塩基配列決定の原理を学び、その基本技術を習得する。	3	後	120	4			○	○		○ △
	○	遺伝子工学実習Ⅲ	遺伝子の検出、発現の検出法を習得する。	3	前	120	4			○	○		○
	○	抗体作成実習	精製タンパク質を用いた解析のための抗体作成法を習得する。	3	前	120	4			○	○		○
	○	細胞解析実習	生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるタンパク質の構造および機能を解析するための様々な解析法について学ぶ。	3	後	60	2			○	○	○	△ △
	○	動物細胞組織実習	動物の臓器、器官における細胞の特徴や組織の特徴を標本の観察を通して学ぶ。組織標本の作製法を習得する。	3	後	60	2			○	○	○	△ △
	○	植物生理学実習	植物や植物培養細胞を用いて、植物の生理作用を学ぶ。	3	前	120	4			○	○		○
	○	植物病理学実習	植物の病徴や病原体の観察を行うと共に、病原体の培養や病原体の植物体侵入の経過などを学ぶ。	3	前	120	4			○	○		○
	○	タンパク質解析実習	タンパク質解析のための実験技法を習得する。	3	後	120	4			○	○		○ △
	○	動物生理学実習	生体機能の調節・制御を動物(ネズミ)を使って実験を行う。	3	前	120	4			○	○		○
	○	免疫学実習	自然免疫系、獲得免疫系の細胞や分子生物学的実験を通して免疫を学ぶ。	3	前	120	4			○	○	○	△
○		プロ養成講座Ⅶ・Ⅷ	職業人・社会人についての基礎的な知識とマナーを身に付ける。	4	前・後	60	4	○		○	○	○	
○		PC 卒研プレゼンテーション	卒業研究成果の効果的なプレゼンテーションツールを作成する。	4	前・後	30	2	○		○			○
○		卒研英語Ⅰ・Ⅱ	卒業研究テーマに関する文献を検索して読む。	4	後	60	4	○		○			○
○		卒業研究Ⅰ・Ⅱ	研究テーマについて、目的を明らかにし、実験計画をたて、実験、解析を行う。	4	前・後	720	24			○	○	○	△ △ ○
○		卒業研究ゼミⅠ・Ⅱ	卒業研究テーマに関する関係分野の調査、討論を行う。	4	前・後	60	4	○		○	○	△	△ ○
○		応用実験動物学	実験動物技術者として必要な応用知識を学ぶ。	4	前	30	2	○		○			○
○		タンパク質解析法	タンパク質解析のための実験法の原理とその方法を学ぶ。	4	後	30	2	○		○			○
○		薬学概論	バイオテクノロジー分野に関連する薬学のトピックスを学ぶ。	4	後	30	2	○		○			○
合計				87	5515単位時間(258 単位)								

卒業要件及び履修方法			授業期間等		
学期ごとに必須単数を取得し、卒業時までに規定単位時間(3895単位時間)を履修し、学校長が適当と認めたものは卒業となる。			1学年の学期区分 2期		
			1学期の授業期間 15週		

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。